

9月30日 三上山

平尾 繁和

山名	三上山 (432m)		山行名	例会		
ルート	御上神社～表登山道～山頂～中段の道～打越～女山～裏登山道～御上神社					
山行日	2020年9月30日(木)		天候	曇り時々晴れ		
参加者	CL:平尾 SL:西川洋		女性6名、男性3名			
	1班:秋山、吉田、木田、2班:河野、玉井、伊藤多、倉光 / 9名					
ルート概略  省略	コースタイム					
	地名		時:分	地名		
	京田辺			中段の道	着	11:45
		発	8:30		発	12:15
	御上神社	着	9:30	打越	着	12:45
		発	9:45		発	12:45
	表登山道入口	着	9:50	女山	着	12:50
		発	9:50		発	12:50
山頂	着	11:00	御上神社	着	13:25	
	発	11:15				
<p>「低山 with 歴史散歩」の第5回目。御上神社の駐車場に9時30分集合。この時期(9月～11月)付近の山は松茸シーズンで入山禁止が多いが、三上山は神社か途中の衣服店で入山料(初穂料)を納めて入山が可能となる。神社の受付に初穂料を納入し登山マップをもらい歩きだす。国道8号線の信号を右折し道路を少し行くと左手に表登山道の入口がある。猪よけフェンスの扉を開け表登山道に入る。いきなり急登がはじまり妙見堂跡で小休止、1班を前にすすむ。直登ぎみの急坂をゆっくり上る。やがて割岩が現れ鎖で入口へあがる。狭い割れ目で手前に肥満度確認の表示があったが、ザックを降ろし横向けになり全員無事通過できた。岩場の急坂が続くが、手すりがつけられているところもありぐんぐん上る。展望所につくとその上は奥宮で鳥居があり、その奥が山頂。休憩し集合写真を撮る。全員の体調を確認し、裏登山道を下らず、いったん花緑公園側登山道を下り中段の道を回ることとした。中段の道との出会いで昼休憩。前にはホオノキがあった。ここまでは整備登山道・遊歩道の表示、たいし中段の道はアップダウンもなさそうだが登山道(違いは?整備されていない?)。左方からくる登山者に道の様子を聞くと藪漕ぎをするようなことはなさそうで安心した。中段の道を右回り、南に向かう。多少のアップダウンはあるものの大変歩きやすい道であった。キノコがいろいろとでていた。裏登山道との合流点、打越につく。地図をみると鞍部の南側に女山のピークがあり、せっかくなので行く。直登ぎみにわずか数分でピークに達した。雌山(270m)の表示があった。国道8号線側から見て三上山の右の小さなこぶである。下山路ではハンミョウが道案内をしてくれた。ハンミョウはオサムシ科の甲虫で漢字では斑猫と書き金属光沢のある緑やオレンジ色の斑の模様が美しい。人が近づくと少し飛んではすぐ地に降り後ろを振り返る動作を繰り返す面白い習性がありミチオシエの別称を持つ。柵を出た駐車スペースの奥に天保義民碑があった。悠紀斎田記念田の間をとおり、後ろの三上山と女山の全景を写真に収め、駐車場に戻った。提案をうけ整理体操をして解散した。整理体操は最近の例会ではやられていなかったが、今後短時間でもするようにすすめたいと思う。数回違うルートで登った山だが、今回また新しいルートが歩け新鮮であった。岩場もあり低山ながら面白い山だ。北尾根縦走路もよさそうだ。</p>						
ヒヤリハット なし						



三上山山頂



割岩



岩場歩き



西側に展望が開ける



山頂手前 鳥居の前で



山頂で休憩



女山 (270m) の山頂で



三上山と女山



## 一言感想

倉光 展子

○山友会の大先輩、佐々木英夫さんが以前、「かなび」誌に“地方の富士山”を連載されていた。日本人にとって、富士山は格別な山である。日本各地に富士山のミニ版があって、それらもその地方の象徴になっている。今回登った三上山（近江富士）もその一つだ。高速道の前に現れた三上山は、近づくにつれ、富士山のように圧倒的な存在となり、圧迫感さえ感じさせられた。三上山は標高 432m と、そんなに高い山ではないが、富士山のように頂上の手前が急斜面になっている。私はいつも高く、美しい山の最後の急斜面を登る時、これは神様の‘造形美‘に必要な要素なのだ、と自分に言い聞かせる変な癖がある。そう思うと納得して、頑張れる。下山時、前から悲鳴が聞こえてきた。大きなムカデだった。それを、しんがりの N さんが、素早く踏みつぶした。その時は残酷と思ったが、今思うと N さんは、竜神から頼まれて、三上山に住む百足（ムカデ）を退治した依藤太の“化身”かもしれない。皆のために百足を殺してくれた N さんに一生食べられる米俵をあげて、表彰しなければならなかったのだ。一つ後悔していることがある。「国宝の御上神社の本殿を仰ぎ、『末永く登山ができますように』とお願いすべきだった」と。

H さん始め、皆さんありがとうございました。

秋山 正子

○低山なので気軽に参加させていただいたのですが岩山で、それなりに急登で、登山から遠ざかっていた私には丁度いいトレーニングでした。そしてちょっと前までの酷暑とちがひ、風が冷たくて心地よく登らせていただきました。

木田 修司

○旅行・山行・仕事など、これまで名神高速道路を何度東行したでしょうか？ 年に数回としても半世紀も経つと、100回を優に超えていることになる。夜間走行や曇天などを考えても、数十回はフロントガラス越しに三上山を見ていることになる。草津インターを過ぎた辺りから、遠く前方に円錐形の美しい山が姿を現す。徐々にその雄姿が大きくなっていき、これぞ「近江富士！」と納得できる山容を見せてくれるまで数分とかからない。「いつか機会を作って登ってみたい」とこれまで何度思ったことか。

頂上からは、これまで見続けてきた高速道路が真正面から少し左に湾曲する線形上を、多くの車がこちらに向かって走ってくる。その中には私と同じように、「いつかは近江富士に登りたい」と思うドライバーもいることだろう。

山行が終わりに近づく「女山の谷」を一人で登って来る男性が見えた。もしやあの人では？と、思いながら近づいた時に思い切って「Sさん？」と声をかけると、何と十数年ぶりの再会となった。滋賀県に移転したと聞いてからは、連絡を取り合うことも無くなっていただけに、思いがけない再会となった。少しの話をする間もなく別れたが、今回は、特に収穫の多い山行となった。

玉井 美智子

○民家の横を通って登山道へ、石段から岩場もあり、割岩ではザックを下して石の隙間を抜けてなんとか通過、看板には（肥満度確認可能）とありましたが全員通れて（笑）良かったです。展望台で景色を楽しみ三上山山頂に到着。長居はせず、中段の道を通って女山に寄り無事下山しました。整備されて歩きやすかったです。天高く秋の空で近江富士も美しく楽しい山行でした。いつも運転をして頂きありがとうございます。

伊藤 多恵子

○針の木雪溪で声をかけてきた滋賀の人。こちらが京都からと言うと「三上山、いいですよ。是非」と。三上山が近江富士の名前だと初めて知った。高速道から何度も姿を見てきたが、登ったことはない。いつか…と思いながら何年も過ぎた。ようやく例会で願いをかなえてもらった。432mの低山とは言え、形からも急斜面があって当然。最後は岩場の上りが続く、変化に富んだコース。琵琶湖や栗東の街並みを見下ろす眺望も素晴らしい。山頂から一気に下るとなだらかな中段の道が裾野を巻いていて足も軽やかになる。長く歩きたければ次の山に向かう縦走路もあるそうだ。山椒は小粒でも…のたどえのようなオモシロイ山でした。

<参考資料>

### 御上神社

本殿は鎌倉時代後期の建立と推定され国宝に、拝殿、楼門、摂社若宮神社本殿が国の重要文化財に指定されている。

### 俵藤太の百足退治伝説

平安時代前期の鎮守府将軍で平の将門の乱を平定した藤原秀郷に関する伝説、三上山の百足退治が「俵藤太物語」で知られる。秀郷（俵藤太）が勢多（瀬田）の唐橋を渡るとき、橋の下に棲む竜神から願いをうけて、三上山にすむ百足を退治した。その功から釣鐘や刀、鎧とともに、食べても尽きぬ米俵を与えられたという。

### 天保義民碑

天保13年(1842年)代官の不正な検地に抗議するため、旧甲賀、野洲、栗太各郡の農民約4万人が一斉に蜂起した（天保一揆）。検地を中止させ（十万日延期）目的を達成したが、一揆のリーダーだった庄屋等の農民たちは犠牲となった。犠牲となった祖先の霊を慰め、その義挙を後世に伝えようと慰霊碑が立てられ、毎年10月15日に遺徳を讃える慰霊祭が行われている。